

「生涯活躍のまち」第4回事例紹介セミナー

日時

令和6年10月2日(水) 14:00~15:30

Zoom会議

セミナーの内容

主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

概要

今回は番外編として、「地域アプローチによる少子化対策」の取組の共有のため、岡山県様 及び 岡山県矢掛町様 から取組事例について発表していただきました。

事例紹介

1

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業の取組と成果

岡山県



「少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業」の実施

- 岡山県内で出生率の低下が大きな課題となる中で、市町村では少子化対策を担う部局横断的な組織がない団体もあること、担当者が少子化対策に十分なリソースを割けないこと、事業構築や交付金活用等のためのノウハウの蓄積がないことが課題であった。
- 県としても、出生率に関する指標や課題は、地域差があるため画一的な対策では限界があると認識していたため、県と市町村が力を合わせて、少子化要因等を分析し、オーダーメイドで対策を検討することとした。
- この方向性が、国の取組である「地域アプローチによる少子化対策」と合致していたため、「少子化対策地域評価ツール」を参考に、カスタムしながら取組を進めることとした。

取組を通じて得られた効果・学び

- 事業を通じて心がけたことは、①言うだけ伴走にしない、②各市町村の自走を目指す、③県と市町村との関係性を深める の3点。
- 県、市町村、ワークショップの運営事業者の三者間で役割分担することで、時間を有効活用して事業を進めることが出来た。
- 複数の市町村の取組が同時進行することで、互いに比較したり情報交換したりすることが出来た。
- 国や専門家等の異なる多様な視点のノウハウ、意見や助言を得られた。
- 地域の課題を明確化することで、広域的に県が対応すべき事業の立案につながった。

事例紹介

2

県との連携による少子化対策事業の検討と取組プロセス

岡山県
矢掛町

町長とコラボしたもの



岡山県実施の「バックアップ事業」への参画について

- 出生数が年々減少し、少子高齢化が進行しているなか、同町においても町内に出会いの場がない、子育てで孤立感を抱えている家庭が増加、昔ながらの考えが根強く今の育児への理解が無い等の課題が浮かび上がっていた。
- こうした中、子どもや保護者からの相談を受ける事が多いが、相談を受けても紹介できる社会資源が町内に無かった。バックアップ事業に参加を通じて、少子化対策と合わせた子育て支援制度の検討ができたと考えた。
- 本事業を通じて、複数の少子化対策を事業立案ができたが、他団体の事例や、補助金の情報等、岡山県のバックアップにより具体的な事業実施のための準備ができたとともに、様々なステークホルダーとの関係を築くことができた。

具体的な取組

- 事業立案の一つに、子育て支援サポーター養成事業が挙げられる。令和5年度より、ヤングケアラーへの支援や虐待予防を目的として、子育て支援サポーター（シルバー人材センター会員）の制度を開始していたが、利用者（子育て世帯）と子育て支援サポーター（シルバー登録者）の子育てに関する価値観の違いによりマッチングがうまくいっていなかった。
- このため、本サポーターの養成講座を事業化し、地域で活躍されているシニア世代に参加してもらった。受講者からは、講座の中で昔と今の子育ての違いを、リアルな体験を交えて聞くことができたので、より身近に感じる事ができたことや、子育てを応援したい等の声を聴くことができ、地域で子育てを応援する第一歩とすることができた。





事例紹介に関するQuestion

Q

事業化1年目は県の伴走支援として500万円の補助があると思いますが、2年目以降の事業実施にあたり、何か活用予定の財源があれば教えてください。

A

2年目はこども家庭庁の「地域少子化対策重点推進交付金」の活用を検討している。

Q

もともと高齢者と子育て世代のマッチングに関して課題があったことをきっかけに、サポーター養成講座を実施したとのことだが、実際に効果が出ているところか。

A

現在、取組をまさに進めているところで劇的な効果を確認することはできていないが、講座を受けた高齢者の方から自分たちが経験した子育てと今の子育てに係る状況が全く違うという声があり、高齢者の方が現在のママが置かれている状況や厳しさを認識いただけたのではと感じている。



参加者の声

今回の事例紹介セミナーには、**29の団体**に参加登録いただきました！

参加者の声

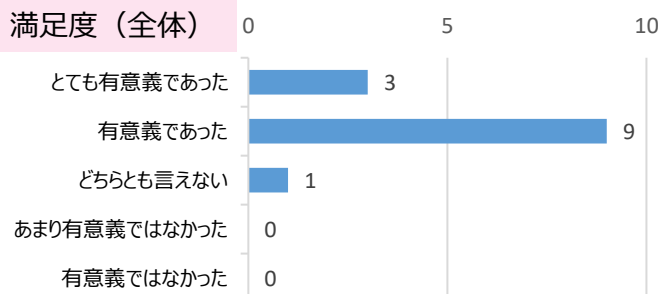
県が危機感を持って取り組んでおり、**国と連携してバックアップ体制を構築している**取組が参考になった。

口だけではなく伴走支援をしっかりとされていた。

長所をさらに伸ばすことで、課題解決につながることもあるということ学びました。

イシューマップ等で構造を可視化することが必要だったのか、参考にしたと感じた。

満足度（全体）



それぞれの事例紹介についても、おおむね「**有意義であった**」と回答いただきました。



今回の事例紹介セミナーのテーマとなった
地域アプローチによる少子化対策に関する資料はこちら！



お問合せ先

「生涯活躍のまち」分科会について

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 中村・藤村



03-6257-1414



JPccrc@cas.go.jp

「生涯活躍のまち」のイメージや取組事例等については、次のURLからご確認ください

<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/ccrc/index.html>

